

花だより

Vol.7

発行日 平成21年3月31日

会員の活動を紹介

【手取花卉振興会】

* 地の利を活かして、時代に対応した
花き生産を進めています *

◎ 適地適作

当地では、夏場に寒暖の差が激しい(特に夜温が低い)気象条件から、花色が鮮明になり市場から好評を得ている。トルコギキョウにおいては、平地よりもロゼット化しにくいという利点があり、従来主流であった菊類から転換し、現在、トルコギキョウが収入の8割強を占めている。また、昨年からは、新たな挑戦として、リンドウの試験導入を行っている。

◎ 時代に対応した品種の選定

最近では稲古花等の需要が減り、葬儀用の利用が多くなっているが、トルコギキョウの品種には、夜間(お通夜、葬儀時)に花が持つむものがあることから、需要に応じた品種選定を常に心がけている。

◎ 共同育苗とその後の管理

会員全員で播種・育苗を行うほか、植付後は全員のハウスを巡回し、肥料・水・病害虫等の

管理状況を把握するなど、品質向上を目指して切磋琢磨している。

◎ 地産地消 …… 直販店への出荷

市場のみでなく、最近では、JA、未智の里、法人店等への出品が増加傾向にある。

◎ 関係機関との交流研修

例年新春には、出荷市場、関係機関を交えた研修を行い、最近の情勢等についての情報交換や前年度の反省点及び次年度の栽培方針などの検討を行っている。

◎ その他 …… エコ農業の推進

堆肥施用を基本とし、ポカシ肥料等の研究を行いながら化学肥料の低減に努めている。

(手取花卉振興会 東藤 氏)



視察研修
(サカタのタネ：
トルコギキョウ
品種展示会)

【石川県鉢物園芸生産組合】

* 何でも語り合える「土壌」を継承し、
鉢物生産の発展に努めます! *

石川県鉢物園芸生産組合は昭和61年、鉢物園芸生産に携わる有志8名によって設立されました。組合員相互の親睦を図り、生産拡大、技術の向上など、石川県の鉢物生産の発展に努めることを目的として、これまで、石川県体や都市緑化フェアなどでは、植栽する植物の調達に係る中心的役割を果たしてきました。

現在組合員は12名。種苗会社の担当者を招いての栽培技術やマーケティング研修のほか、県外で開催されるセミナー等にも積極的に参加しています。

当組合の特徴として、組合員相互の情報共有ということが挙げられます。お互いの持っている技術や情報をざっくばらんに語り合える「土壌」がこの組合には培われています。

セミナーに参加した組合員はレポートを提出し、ぞつすることで自らの理解度を高めると同時に、他人のレポートを見ることで同じセミナーを聞いても違う視点での気づきがあります。当然、参

加できなかった組合員にとっても参考になります。

価格低迷、資材費の高騰など、鉢物生産を取り巻く経営環境は大変厳しいものとなっておりますが、今年設立25周年の節目を迎える当組合に長年培われてきた「土壌」をこれからも継承しながら、今後は富山、福井といった近隣の県の生産者との交流を図るとともに、関係各団体との連携をとりながら、石川県の鉢物生産の発展に寄与できるような活動に努めてまいります。

(石川県鉢物園芸生産組合 今本 氏)



視察研修
(サカタのタネ：
フラワーバックトライアル)



「見せ方」をテーマとした展示
(粟ボタンを洋風アレンジした寄せ植え)

協会の活動紹介

第4回 石川県花き品評会表彰式を開催

平成21年2月20日(金)、石川県農業総合研究センターにおいて、第4回石川県花き品評会表彰式が開催され、入賞された8名の方々に賞状が授与されました。

表彰式は、寺本会長の挨拶で開会し、来賓として、県農林水産部生産流通課松村課長、全農石川県本部園芸課北本課長、金沢総合花き株式会社上坂社長、株式会社金沢花市場村松社長にご臨席いただきました。

品評会の審査は、平成20年8月1日(金)に、旧盆向け切り花を対象として行われました。9月26日(金)には選賞会議が行われ、審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞に、白山市の松浦さんが選ばれました。その他、優秀賞3名、奨励賞3名、特別賞1名の方々が選ばれました。入賞者の皆さんは下表のとおりです。おめでとうございます。

賞状の授与に続き、来賓を代表して松村課長

から、受賞された皆さんに対するお祝いの言葉と今後の花き振興に向けた本会の活躍を大いに期待する旨の祝辞が寄せられました。

最後に、県農業総合研究センター中央普及支援センター田中センター長から審査講評がありました。今回の品評会は、市場に出荷する状態での審査を行いました。一部では、束ね方が悪かったり、水上げが不十分で萎れがみられたことにより減点されるなど、やや残念な面がありました。この中で、入賞した作品については、草姿のバランスが良く、荷姿も整っていた点が高く評価されたとの講評をいただきました。また、今回のように、出品された日に審査を行った場合、消費者が実際に観賞する開花状態ではないことや、花持ちの程度を確認できないことから、展示してから数日後に審査をしてはどうか、というご意見をいただきました。

賞	名	入賞者氏名	受賞品目	所属部会
最優秀賞	石川県知事賞	松浦市栄氏	ひまわり	JA松任花き部会
優秀賞	全農石川県本部運営委員長賞	山本昭次氏	小ぎく	JA金沢市花卉部会
	金沢総合花き株式会社社長賞	今井修氏	けいとう	同上
奨励賞	株式会社金沢花市場社長賞	野村清志氏	入才らん	JAはくい押水花木部会
	石川県花き園芸協会会長賞	寺本恭子氏	小ぎく	JA金沢市花卉部会
特別賞	同上	山田峰雄氏	トルコギキョウ	JA松任花き部会
	同上	宮田一彦氏	ユキヤナギ	JAはくい押水花木部会
特別賞	同上	中嶋猛氏	アスター	JA石川はくほく花き部会



最優秀賞を受賞した松浦さん



来賓祝辞 (県生産流通課 松村課長)

全体研修会を開催

平成21年2月20日(金)、第4回石川県花き品評会表彰式に続き、全体研修会が開催され、総勢59名の参加をいただきました。県農業総合研究センター中央普及支援センター池野農業指導専門員の進行で、県農業総合試験場の初代花き科長を勤められ、今年3月に退職される、県農業総合研究センター中央普及支援センター田中和人センター長を講師に迎え、「県内の花き生産に期待すること」と題して講演をいただきました。

今後、花き産地が取り組むべきこととして、貴重なアドバイスをいただきましたのでご紹介いたします。

◇プロジェクトで取り組む

県の戦略作物(能登大納言小豆、中島菜、金時草、源助だいこん、ルビーロマン)では、関係機関が一丸となったプロジェクト活動を行っており成果を上げている(スライドで紹介)。花き戦略品目についても同様の活動を進めてほしい。



花き産地のあり方を熱く語られる田中センター長

◇オール石川としてのPR活動を

花きにおいても生産者の顔が見えるPR活動が必要である。パンフレットなどにより産地を紹介することも良い方法であるが、各産地ごとに取り組むのではなく、県一本で活動を進めるべきである。

◇栽培の特許を

石川県に赴任してきた当時、ハウス栽培が一般的な品目を、露地でトンネル栽培していて驚いたことがある。産地独自の栽培方法については、特許をとってブランド化を図ることもひとつの手段である。

◇今やっていること+新しいこと

現状に加え、新しいことに取り組もうとする気持ちを持つことが必要。

◇花き園芸協会として

県内全域の生産者が集まっている協会に対して、「石川ブランド」で売り込めるような生産振興活動を期待する。



意見交換の様子

◇新しい動き◇

「NaniwaFEX2009 ～なにわ春いちばん～」へ出展

平成21年2月13日(金)～14日(土)に大阪市鶴見区花博記念公園緑地「水の館ホール」で開催された、「NaniwaFEX2009」に石川県花き園芸協会として出展を行いました。

昨年6月に続いて開催された第2回目の展示会では、「なにわ春いちばん」と題打ち、春らしい商材や四季を通じて出荷のある花き類を対象に、56産地の参加があったほか、輸入業者や資材メーカーのブースなど、総勢83団体からの出展がありました。

当協会のブースでは、JAはくい押水花木部会の金銀ペイント加工品、サンゴミズキ、ニューサイランなど6品目、JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会のスプレーストック、切花葉ボタン、さらに、県農業総合研究センターが育成したフリージア「石川f1号」の展示を行いま

した。また、花き戦略5品目等のパネルや上記2部会並びにフロールすずのパンフレットなどにより、県産花きの紹介・PRを行いました。

今回の展示会では、新しい試みとして、小売店や仲卸業者等の声を聞く「目安箱」が全産地のブースに設置され、各産地の担当者が来場者に対してアンケート調査を行いました。

アンケート結果や来場者の意見等、展示会の概要については、全体研修会で紹介させていただく予定です。

なお、初めての出展で不備な点も多い中、ブースの設営から後片付けまで、期間を通じてご協力をいただきましたJA全農いしかわ大阪青果事務所の田中さんをはじめ関係者の方々に対して感謝申し上げます。



石川県花き園芸協会のブース



市場関係者等との写真撮影(お隣のブースにて)



他産地の出展の様子



「春いちばん」をイメージした主催者展示コーナー